

利用学習計画書

平成24年 4月18日

担当 第6学年 遠藤 恵利子

1 ねらい

旧石器時代や縄文時代の生活について、身近にある遺跡の見学や体験活動などを通して、理解を深める。

2 評価

見学・体験活動を通し、身近なところで営まれていた旧石器時代や縄文時代の生活について、分かったことや考えたことをまとめることができる。

3 学習活動について

社会科「縄文のむらから古墳のくにへ」

4 事前指導

教科書、資料集などを利用して「縄文時代」の人々の暮らしについて知る。

5 当日の指導（活動）内容

①地底の森ミュージアム

学級ごとに以下の活動を時間ごとに交代して活動する

- (1) 見学学習：展示室を館職員の説明を聞き、学習シートを利用しながらの学習
- (2) 体験学習：石器作り

②縄文の森広場

- (1) 見学学習（学級ごとに活動）：復元住居・遺構表示等の野外展示及び館内の展示見学を学級ごとに館職員の説明を聞き、探検シートを利用しながらの学習
- (2) 体験学習：全員でアクセサリー作り

6 事後指導

ワークシートをもとに、学んだことを新聞形式にまとめる。

利用学習報告書

平成24年 5月18日

担当 第6学年 遠藤 恵利子

1 事後指導について

(1) 実施日

平成24年 5月 1日(火) 4校時

(2) 主な内容

- ・社会科の授業でワークシートの答え合わせ。
- ・社会科の授業で旧石器時代・縄文時代・弥生時代それぞれに関し、衣食住の観点から違いや共通点を探る。

2 送付する資料

児童生徒の学習後のまとめから(感想の抜粋 6名分)

児童生徒の学習後のまとめから

○石器作りのとき、自分はなかなか上手くわれなかったのに佐藤先生は1、2回で簡単そうにわっていたのでとてもすごいなあと思いました。いつもの学校では勉強できないようなことをたくさん勉強できたのでとてもよかったです。自分は2万年前に生まれていたら生きていけないなと何回も思いました。

(A子)

○分かったことは「大昔の人々は、生きるために大変なことでもやっていた。」ということと、「昔の技術が今の技術に生かされている。」ということと、「昔の人たちも今と変わらずおしゃれだった。」ということなどです。やりの先につける矢じりはどうやって作ればいいのか、食料を保存させるにはどうすればいいのか、火をおこすにはどうすればいいのか…などなど、一から考えてやっているのはとてもすごいなあと思いました。もっと大昔の人々がどんな風にくらしていたのかを調べてみたいなあと思いました。

(B子)

○地底の森ミュージアムに行って、木の根がありました。鹿のフンもありました。縄文時代のものが残っているのはすごいなあと思いました。地面の深さも、縄文時代の地面がすごく低かったです。石器作りも縄文時代の人はずっとやっていたんだなあと思いました。

(C男)

○地底の森ミュージアムでは学校では勉強しない旧石器時代のことを学べてとてもおもしろかったです。石器作りの体験はとても難しかったです。でも、難しい石器作りをよく昔の人は作れたなあと思いました。生活は今の方が便利ですが、技術などは昔の方が良かったのかなあと感じました。

(D子)

○私は縄文時代や弥生時代の人々はチームワークが今の人々よりも強いと感じました。今の人々はあまりまとまることなく、言い争いになったりしますが、縄文時代や弥生時代の人々は指導者などを中心に動いたり、狩りのときにもえものをつかまえたり、生活の中のことを今の人よりもっと上手にみんなで分担したりしながらみんなで支えたり、支え合ったりして、みんなでいろいろなことをやったということはおよぼどチームワークがないとできないと思うからです。でも、縄文時代や弥生時代の人々はそのようなことができないと生きていけないと私は思います。今の人々は科学が発達して縄文時代や弥生時代のような（今の人々にとっては大変な）ことは難しいけれど、協力やチームワークは忘れてはいけないことだと思います。

(E子)

○旧石器時代は、気温が7～8度低く、とても寒いということが分かりました。旧石器時代に着ていた服は動物の毛皮です。その服はとても暖かいそうです。私も着てみたいです。

(F子)